

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	都市経済学 (Urban Economics) 372051-14120					担当教員	鯉江 康正 (コイエ ヤスマサ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単 位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
都市経済学は、ミクロ経済学の価格理論を基礎として、空間的広がりを持つ都市構造や機能を分析する近年急速に発展した経済学の一分野である。現在多くの人は都市に住んでいるが、その利便性とともにも、さまざまな問題にも直面している。そこで、本講義では都市経済学の基礎的な概念や手法をわかりやすく解説し、都市問題を解決するための手がかりを習得することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
授業で説明した事項について、長岡市や他の都市を訪問した時に自ら体感し、理解と興味を深めること。また、学修活動を確認するために、課題の提出を求める。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 都市経済学と都市化（都市化に影響を与える要因）について説明できる。 (ii) 都市集中のメカニズム（交通費、競争、階層構造による集中のメカニズム）について説明できる。 (iii) 都市分析の基本概念（都市を分析するための経済学の道具である需要曲線、供給曲線、市場均衡）について説明できる。 (iv) 都市の成長と衰退（需要主導型・供給主導型・需給混合型成長および衰退）について説明できる。 (v) 都市の土地問題（土地サービスと地代・地価の関係、土地課税の影響）について説明できる。
⑥ テキスト（教科書）
テキストは使用しない。授業時間にレジュメを配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
宮尾尊弘（1995）『現代都市経済学 第2版』日本評論社（ISBN 4-535-55020-4）

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 都市経済学と都市化	都市経済学と都市化について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している	都市経済学と都市化について、資料等に頼らず説明できる	都市経済学と都市化について、資料等を見ながら説明できる	都市経済学と都市化について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	都市経済学と都市化について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 都市集中のメカニズム	都市集中のメカニズムについて、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた学修成果を示している	都市集中のメカニズムについて、資料等に頼らず説明できる	都市集中のメカニズムについて、資料等を見ながら説明できる	都市集中のメカニズムについて、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	都市集中のメカニズムについて、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 都市分析の基本概念	都市分析の基本概念について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた分析もできる	都市分析の基本概念について、各内容・目的・課題を資料等に頼らず説明できる	都市分析の基本概念について、各内容・目的・課題を資料等を見ながら説明できる	都市分析の基本概念について、各内容・目的・課題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	都市分析の基本概念について、各内容・目的・課題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iv) 都市の成長と衰退	都市の成長と衰退について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた分析もできる	都市の成長と衰退について、資料等に頼らず説明できる	都市の成長と衰退について、資料等を見ながら説明できる	都市の成長と衰退について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	都市の成長と衰退について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(v) 都市の土地問題	都市の土地問題について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を超えた分析もできる	都市の土地問題について、資料等に頼らず説明できる	都市の土地問題について、資料等を見ながら説明できる	都市の土地問題について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	都市の土地問題について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%		20%			30%		100%
(i) 都市経済学と都市化	10%		4%			6%		20%
(ii) 都市集中のメカニズム	10%		4%			6%		20%
(iii) 都市分析の基本概念	10%		4%			6%		20%
(iv) 都市の成長と衰退	10%		4%			6%		20%
(v) 都市の土地問題	10%		4%			6%		20%
フィードバックの方法	課題は採点して模範解答を添付し返却する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
取り上げたトピックスに対する興味を深める意味でも、自分ならばどうするかを考える機会を増やしていくと共に、課題を出すことによって、学生の理解度を高めていく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション 都市経済学と都市化①（都市経済学の位置づけ）	都市経済学の対象と都市化の意味を理解する。	30分
2	都市経済学と都市化②（資源の不均等分布の影響）	伝統的経済理論がおいている仮定の整理。資源が不均等分布をしている場合の都市化の理解。	60分
3	都市経済学と都市化③（規模の経済、交通費と取引費用の影響）	規模の経済、交通費と取引費用を考慮した都市化の理解。課題の提出。	90分
4	都市集中のメカニズム①（交通費と集中）	市場志向型産業と原料指向型産業による都市集中のメカニズムの理解。	60分
5	都市集中のメカニズム②（競争と集中）	ホテルリングのモデルによる店舗立地のメカニズムの理解。	60分
6	都市集中のメカニズム③（都市集中のパターン）	中心地理論による都市の階層構造の理解。課題の提出。	90分
7	都市分析の基本概念①（需要曲線、供給曲線）	需要曲線および供給曲線の理解	60分

8	都市分析の基本概念②（市場均衡）	市場均衡の理解	60分
9	都市分析の基本概念③（市場均衡の変化）	市場均衡の変化を分析するための3段階アプローチを理解する。課題の提出	90分
10	都市の成長と衰退①（都市の成長分析：需要主導型・供給主導型成長）	需要主導型の都市成長と供給主導型の都市成長の理解。	60分
11	都市の成長と衰退②（都市の成長分析：需給混合型成長）	需給混合型の都市成長の理解。	60分
12	都市の成長と衰退③（都市の衰退分析）	都市の衰退過程および衰退過程における都市政策の理解。課題の提出。	90分
13	都市の土地問題①（日本の土地問題）	日本の地価の推移と地価が高い理由および問題点の理解	60分
14	都市の土地問題②（土地サービスと地代）	土地サービスの需要曲線と供給曲線、地代の決定の理解	60分
15	都市の土地問題③（地価と土地課税）	土地保有税、土地のキャピタル・ゲイン課税の影響の理解。課題の提出。	90分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型ALを採用する。毎回の講義で質問感想シートを配布し、次の講義の最初にそれに対する解説を行い、学生の理解度を高めていく。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
前職の民間シンクタンクでは、「整備新幹線の経済効果分析」「道路整備の効果と評価に関する調査」「公共投資の九州地域経済に与えるインパクト分析」などの調査研究活動に従事してきた。また、「長岡市総合計画策定委員会」「長岡市都市計画マスタープラン策定委員会」「長岡版広域道路ビジョン懇談会」「長岡市住宅政策マスタープラン改定検討会議」「地域資源発信拠点整備検討委員会」などの委員を歴任している。	
実務経験と授業科目との関連性	
シンクタンクにおける経験や審議会の委員の経験から、各テーマについて多くの具体例を説明できる。たとえば、「都市集中のメカニズム」では、全国の都市がどのような経緯で成長してきたのか、交通施設整備が地域にもたらした効果などの解説を事例に基づいて行う。また、「都市公害と対策」では、実際にそれらを避けるために、長岡市において土地利用がどうなっているのかを都市計画総括図を示すことにより、説明していく。	